

2-2-3 ヒヨドリ

全長約28cm。全身が灰色でハトよりやや小さいスマートな鳥。森林だけでなく、市街地から農村部まで人の身近なところにも1年中いる。「ヒーヨ、ヒーヨ」などと大きな声で鳴くのでよく目につく。



▶ 1. 分布と生息環境

日本全国で1年中見られる。ただし、山間地や北日本の個体は秋に平地や温暖な地方へ移動して越冬するものが多い。また、春には越冬地から繁殖地へと移動する。ヒヨドリは日中に移動するため、春と秋には渡りの群れが見られる。一方、留鳥として1年中同じところに生息している個体もいる。

▶ 2. 食性

主に木の実を食べるが、昆虫、樹木の新芽や若葉、冬には雑草の葉なども食べる。特に甘いものを好み、サクラやツバキの花にくちばしを差し込んで蜜をなめる。ポップコーンやガムなど人の食べ物も好む。

▶ 3. 繁殖や行動等

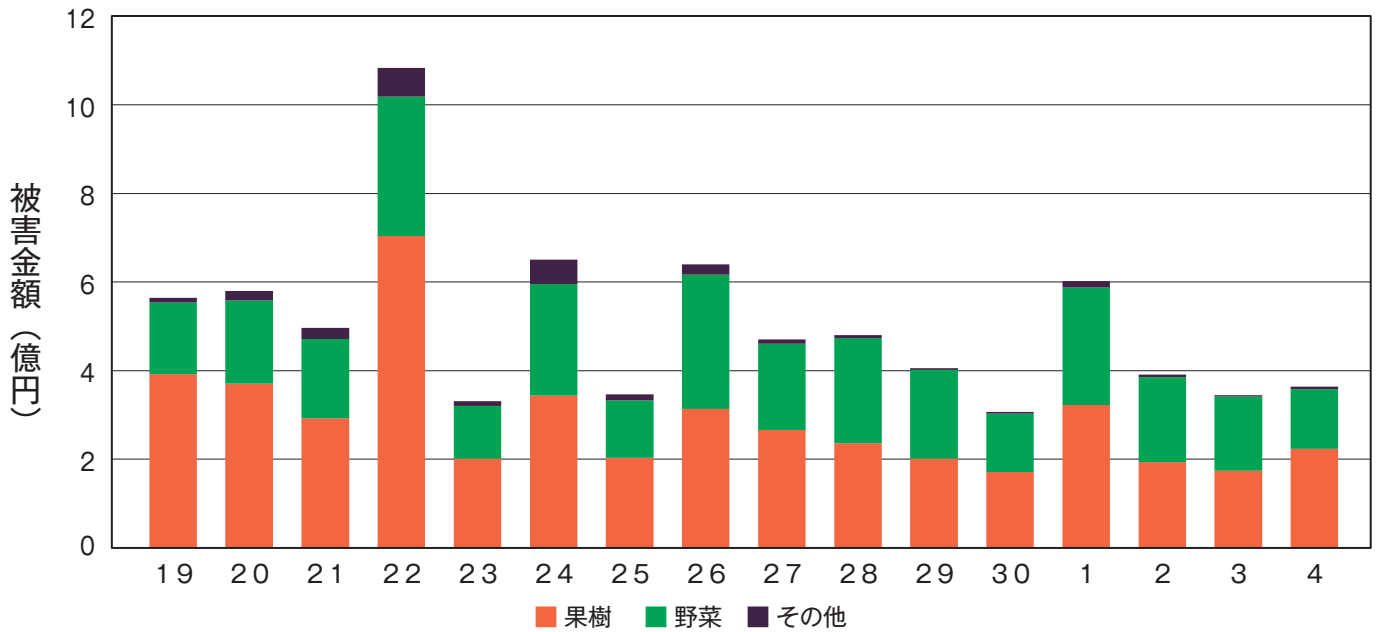
繁殖期は5～9月で、地上1～5mの庭木の内側など、外から見えにくい、よく茂った樹木の枝にお椀型の巣を作る。繁殖期はつがいで行動することが多いが、冬期には数羽から100羽以上が集まることがある。

▶ 4. 農作物被害

近年の被害の推移を見ると、年変動は大きいものの、概ね減少傾向にある(図2-5)。被害作物は果樹と野菜である。令和4年度の統計によると、被害量、被害面積、被害金額ともこの2つの作物で98%を超える(図2-6)。

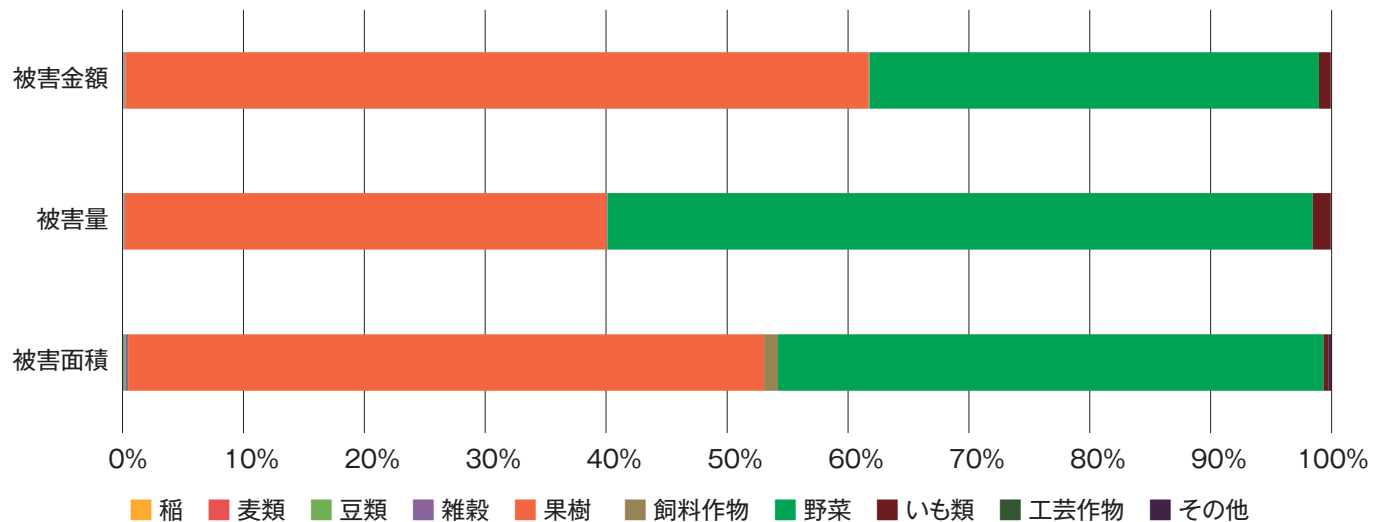
温暖な地域で越冬するヒヨドリは、関東以西では冬に大きな群れになることがあり、この時期に農作物への被害が多い。木の実が少なくなる真冬から初春にかけて、かんきつ類やキャベツなど葉茎菜類を食害する。かんきつ類では、果皮の厚いものは被害を受けにくく、熟期が1～3月の品種に被害が多い。葉茎菜類ではアブラナ科を好む。野菜では、くちばしでちぎったり、つついたりして食べるため、ちぎれた跡や鋭角の三角形の痕跡が残り、昆虫類による丸みを帯びた食痕とは区別ができる。キャベツなどでは、外葉が食べられた後、結球部がえぐられる。ヒヨドリが身を隠せるような林が近い場所で被害が発生しやすい。

図2-5 ヒヨドリによる農作物被害金額の推移



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

図2-6 ヒヨドリによる作物別被害内訳(令和4年度)



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

5. 被害の特徴



■キャベツ

外葉と結球部分が食べられている。食痕がちぎりと取ったような形状であり、昆虫による被害と区別できる。中央の濃緑色のかたまりはキャベツを食べたヒヨドリのフン。



■ブロッコリー

ヒヨドリは、花蕾よりも葉を食べる。



■こまつな

ヒヨドリはくちばしでちぎるように食べるため、三角の切れ込みが目立つ。



■みかん

比較的細いくちばしをさしこんで食べた形状で縁も細かい三角の切れ込みになっている。